

「ハーキュリーズ・ガーディアンズ24」 戦術空輸を通じて米韓同盟を強化 *Hercules Guardians 24 strengthens US-ROK alliance through tactical airlift interoperability*

October 1, 2024

By Staff Sgt. Tristan Truesdell
374th Airlift Wing Public Affairs

韓国・金海空軍基地発「We Go Together! (一丸となって立ち向かう)」というフレーズは、米韓両軍の集会で頻りに耳にする掛け声で、1953年の相互防衛条約締結以来の堅い絆を象徴している。

「ハーキュリーズ・ガーディアンズ24」(HG24) 演習もその例外ではなかった。横田基地第36空輸中隊のメンバーは、韓国の金海空軍基地第251戦術空輸中隊のメンバーと協力し、9月9日から14日にかけて朝鮮半島で戦術空輸作戦と地上演習を実施した。この訓練を通じて両軍はパートナーシップをさらに発展させ、相互運用性の強化を図った。

HG24は1週間にわたる米韓二国間演習で、ミッションの計画や専門家間の意見交換、シナリオに基づいた飛行訓練、そして複数回にわたる空中投下を行う。この演習は、新型コロナウイルス感染症の拡大によって一時中止され、昨年5年ぶりに再開された。

「HG24は、クルー個人の訓練に留まらず、米韓空軍のクルー間の相互運用性を築くものである。継続的な二国間の相互運用性は、あらゆる有事の抑止や対応において極めて重要だ。この演習を通じて、クルーは管轄エリアの主要なパートを知ることができた」と第36空輸中隊分遣隊長レオズコ佐は述べた。

毎日、ミッション計画の立案から始まり、各軍の整備士がその日の作戦のためにC-130Jスーパーハーキュリーズを準備した。一週間で計9回飛行し、ある日には2つの重装備バンドルを空中投下し、その翌日にはM119 105mm榴弾砲システム、20個のコンテナ運搬システム、そして韓国陸軍の兵士5人の投下を行った。

米軍と韓国軍は、それぞれ2機のC-130Jスーパーハーキュリーズを提供し、計画、戦術、技術、手順などを互いに見て学び合った。

演習は、韓国の祭日「秋夕(チュソク)」に終了した。チュソクは、家族や親戚が集まって食事や団欒をし、祖先を祀る日である。この大切な日に、韓国空軍のメンバーは米軍の隊員との文化交流に一日を充てた。交流は、釜山の国連記念墓地を訪れて戦没者に敬意を表すことから始まり、その後、それぞれの基地に帰る前には最後に地元の料理を共に楽しんだ。

第36空輸中隊教官ロードマスターのウィリアム・ジェンキンス軍曹は、「HG24は米韓の相互運用性を強化し、両軍の絆を深められる素晴らしい機会だった。専門家の交流や飛行訓練を通じて韓国空軍と絆を築くことで、我々は共に成長し、熟練した結束力のあるチームになった」と語った。

また「ハイライトは、制服を脱いで韓国空軍のメンバーと私的な時間を過ごせたことだ。相手の人柄を知り、話を共有することで、ハーキュリーズでの共同任務を超え、互いの人間性にまで深い結びつきを感じることができた」と続けた。

大国間競争の時代において、米国の同盟国やパートナーとの揺るぎない絆は、絶えず変化し進化し続ける戦略的状況において、強力な存在となるための重要な要素である。韓国との関係を通じ、米空軍はインド太平洋地域を守り続けながら、いかなるハイエンドの紛争や長期的な戦略的競争にも、いつでもどこでも即応できる態勢を維持している。

第5航空機動航空団司令官セオングユ准将は、「『ハーキュリーズ・ガーディアンズ2024』に参加してくれた第36空輸中隊の皆さんに感謝している。この関係とHG24のような演習を今後も継続し、拡大させることが、部隊の成長と未来にとって重要だと確信している。我々が共に成長することが、戦いにおける鍵となる」とコメントを述べた。

